

関西大学高等部・中等部 2022年度学校評価報告書



2023年3月

目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3. アンケートの実施状況.....	9
4. アンケート結果の分析.....	9
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果.....	11
6. 校長の意見書.....	13
7. アンケート結果.....	14

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年4月

高槻ミュージックキャンパスに関西大学の3つめの併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」（学理と実際との調和）の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の12年一貫教育を実践。

2014年～2018年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）として採択される。

2018年1月開催の「SGH甲子園2018」において、ラウンドテーブルディスカッションの部で優秀賞を受賞。

その実践をさらに深化させ、国連の提唱するSDGsの活動にも参加。

2019年

開校10周年を迎える。

2020年

新たな次の10年へ

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパスで実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」を発達段階に応じてバランスよく高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有した「高い人間力」を持つ人材を育成する。

また、課題発見・問題解決を促す体験型の授業により、自ら考え、自ら行動しながら、学んだ知識を実際に応用することで知恵へと昇華することができる能力を養う。これにより、多様な価値観を尊重しながら、共生の道を模索することができる、ユニバーサル（全世界的、万人に通じる、普遍的）な視野を持つ「たくましく」「しなやかな」人材を育成する。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上、進路希望の実現

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 中等部では、家庭学習の定着と学習の基礎基本の徹底を図る。特に、スローラーナーの学力向上を図る。</p>	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染が終息しない中、学校全体で継続的に感染症予防策を講じながら、他方インフルエンザの感染拡大により学年閉鎖となる学年もあったが、ICT環境も活用し学

<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査の校内分析会を開催し、具体的な対策を検討。 ・各定期考査及び学力推移調査の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。 ・学力向上に関して、生徒アンケート設問9の肯定的回答（1・2）が70%以上。 ・スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問12の肯定的回答（1・2）が60%以上。 	<p>びを止めることなく教育活動を継続することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部では例年通り、学力推移調査の学習実態データを学年毎に毎回集約し、個々の状況に応じて質問対応などの指導を行った。また、教科担当と連絡を取り合い、指導すべき点の情報共有を行った。 ・2020年度から開始した外部業者による個別指導について、これまでオンラインで行ってきたが、7月からは感染症予防策を講じたうえで、対面で実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、学力推移調査結果を元に資料の分析方法の研修会（5月ベネッセより招聘）を開催し、学力向上のために教科担当と学年が連携し、個別に対応を行った。 ・成績不振者に対して、学年と教科担当者が連携し、個別指導等のフォロー対応を行った。 ・中等部生徒のアンケート結果からは、設問9「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じますか」では、1・2の肯定的回答が78.7%と目標を達成した。 ・設問12「補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか」では、1・2の肯定的回答が68.4%であり、目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>家庭学習が定着しない生徒の指導が課題である。今後も継続的にスローラーナーへの指導・支援を進めていかななくてはならない。学年毎の課題を集約し、取り組んでいくことが必要である。</p>
<p>イ 高等部ではキャリア教育の充実を図り、ミスマッチの無い進路実現を目指す。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会の積極的な参加を促し、一人あたり2学部以上の参加。 ・大学進学の情報提供に関して、生徒アンケート設問8の肯定的回答（1・2）が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に高等部1～3年生で法学部に興味のある生徒を対象に法学部連携セミナーを開催した。 ・7月に高等部2年生を対象とした関西大学学部説明会をオンラインで実施した。また、高等部1年生の希望者も一部参加した。 ・7月に高等部1年生を対象に、校内で社会安全学部連携プログラムを実施した。 ・11月に高等部1年生が千里山キャンパスで関西大学の大学説明会に参加した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学学部説明会について、オンラインでの開催となったこともあり、学年全体に参加を推奨し、一人あたり2学部以上となる延べ448名が参加した。

	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学の情報提供に関して、設問8「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」の1・2の肯定的回答が84.2%と目標を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>大学併設校としての課題と私学としての生き残りとの相反について明確な解決策が見いだせないのが現状である。高等部では、毎年20～30名程度が他大学等に進学しているが、他大学等への進学者は、難関国立大学等への進学者だけでなく、学力低位層の進路指導として関西大学より下位の大学への進学指導が必要な生徒がいる。今後も学力低位層の引き上げ、関西大学への進学に向けた方策を模索する必要がある。</p>
<p>ウ 併設校としての使命である関西大学への進学数を増やす。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や個人懇談、三者懇談を実施し、生徒の志望状況を把握。 関西大学への内部進学希望者100名以上。 関西大学への内部推薦の合格率95%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年通り、高等部1年生は6月に進路適性検査を実施し、進路希望調査は高等部1～3年生を対象に9月に実施した。 それを基に生徒個人面談、7月及び12月には保護者を交えての三者面談を実施するなど、各学年で適宜個別に面談を繰り返し実施した。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を9月に実施。三者面談は7月、12月に実施した。加えて、各学年は日常的に(昼休み、放課後等)面談を実施し、生徒の志望状況を把握している。 学年団・進路指導部の尽力もあり、関西大学への内部進学希望者は105名となり、目標を達成した。 内部推薦の合格率は100%を達成した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>進路希望調査、面談を継続して実施していき、関西大学各学部に進学するため、各学部の成績の目安に応えられるべく中等部同様、学校での学力到達目標に向けて実践し、学力向上に努めなくてはならない。</p>

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p>
<p>ア 探究学習の深化、充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部「プロジェクト基礎」 	<p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部「プロジェクト基礎」、「プロジェクトゼミ」での外部講師(関西大学の先生が多数)の積極的な活用を行った。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用した。 高等部1年生「プロジェクト基礎」における関西大学研究室訪

<p>「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での積極的なフィールドワークの実施（各学年で年1回以上）。 ・ 探究学習とSDGs活動との連携を深めるため、高等部主催の「SDGsフォーラム」を開催。 	<p>問フィールドワークは天候の状況（台風）により多くが中止となったが、一部の学部では別日に実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部1年生「プロジェクト基礎」および高等部2年生「プロジェクトゼミ」において、企業や団体、大学や研究所等へのフィールドワークを行った。 ・ 中等部の「考える科」及び「総合的な学習の時間」において、2月に対面で総合学習発表会を開催した。 ・ 高等部生が応募した論文が選抜され、昨年度参加した「サステナブル・ブランド国際会議2022」（横浜）に続き、2月に東京で開催された「サステナブル・ブランド国際会議2023」（東京・丸の内）に招待参加した。 ・ 高等部1年生が6月に「関大SDGsフォーラム」を実施した。17の企業や団体、総勢約40名の方々のご協力の元、持続可能な開発目標について考える特別授業を行った。 <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度開講の20ゼミで外部講師を登用し、目標を達成した。 ・ 中等部「考える科」、「総合的な学習の時間」、高等部1年生「プロジェクト基礎」は対面で実施した。高等部2年生「プロジェクトゼミ」ではコロナ禍ではあるが、可能な限り従来の形式で実施できるように試みた。又、ICT機器を活用し実施できるものについてはオンラインで探究学習を進めた。中等部の総合学習発表会も感染症予防を講じながらアリーナでの対面形式で開催することができた。 ・ 高等部1年生が「関大SDGsフォーラム」を開催し、持続可能な開発目標（SDGs）について考える特別授業を実施することができた。 ・ 2月に実施された「サステナブル・ブランド国際会議2023 東京・丸の内」に招待参加した。生徒のみならず、引率教員も良い刺激になった様である。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>開校以来本校の特色の一つとして位置づけている探究学習であるが、プロジェクト学習における論文作成等について課題もあり、今後も学習内容や指導方法について改良を重ねていかねばならない。</p>
<p>イ ICT機器を活用した先進的教育活動を取り入れる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒向けにICTに関する研修を年1回以上開催。 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒向けにICT研修及びICTモラル研修を7月に実施した。 ・ ICT教育推進委員会において、ICT機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討し、今後の方向性を確認した。

<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進委員会において、ICT 機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討。 ICT 環境の活用に関して、教員アンケート設問 17 の肯定的回答（1・2）が 70%以上。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休校等に備え、オンライン学習を実施する場合には、2020 年 3 月から実施した内容に沿って成果・課題を活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザによる学年閉鎖時には、ICT 機器を活用し、オンライン学習に取り組んだ。 <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒対象の ICT 研修及び ICT モラル研修を 7 月に実施し、目標を達成した。 インフルエンザ感染拡大による学年閉鎖時には、Google Classroom による課題提示や提出等を行い、生徒との双方向のやり取りを実施した。また、Zoom を活用したオンライン学習の対応も行った。 設問 17 「液晶ディスプレイや PC など充実した ICT 環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる」の 1・2 の肯定的回答が 86.1% であり、目標を達成した。 <p>【今後の改善方策 (Action)】</p> <p>本校が開校以来進めてきた ICT 機器を活用した教育活動において、教科の特性、生徒の成長過程等に留意しながら、中等部、高等部いずれの授業においても、必要に応じて iPad やパソコン、教室のディスプレイやプロジェクターを活用して授業を行っている。今後も継続して進めていきたい。又、ICT モラルについても指導を進めていきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中等部、高等部とも海外研修旅行以外の海外との交流活動を積極的に展開する。 海外交流校の増加に向けた取り組みを進める。 国際理解に関して、生徒アンケート設問 21 の肯定的回答（1・2）が 70%以上。 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大の影響により、中等部 3 年生のカナダ研修旅行に代えて沖縄への研修旅行、高等部 2 年生のハワイ研修旅行に代えて沖縄・八重山諸島への研修旅行を実施した。 海外交流校の増加を目指し、関西大学国際部及び各国領事館等に問い合わせを行い、情報収集・分析を行った。 海外交流校とのオンラインによる交流を行った。 オーストラリア（トゥーンバ校）と交流を行った。 <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育に関しては、コロナ感染拡大の影響により、国際交流の現地交流は実現できなかったが、11月にシンガポール、12月に台湾の交流校とのオンライン交流会を行った。 アンケート設問 21 「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」の 1・2 の肯定的回答は、中等部 83.8%、高等部 87.8% と目標を達成した。 2023 年度から中等部 3 年生対象のターム留学を実施することを決定し、具体的な実施に向けた準備が進められている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育部が中心となり、7月末に『English Challenge Program 2022』と銘打った、夏期イギリス研修の国内バージョンとなるオンライン研修を実施した。 ・3月に高槻市にある海外協力グループ「クスクス」と共同して、海外の文化等を知るための活動を行う。 ・中等部、高等部共にHRの時間を活用してオンラインで海外交流を実施した。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>コロナ禍の終息が見えない中、しばらくはその影響は続くと考えられるが、アフターコロナを見据えて更なる国際化を推進していきたい。また、オンラインでの交流も併用しながら、海外交流校を増やしていくなど、更なる充実発展を図っていきたい。特に、2023年度から実施するターム留学をはじめ、今後様々な形の留学制度の拡大や海外からの留学生の受け入れなど国際交流の推進を目指したい。</p> <p>この3年間で、学校としてオンラインでの交流活動のメリット、デメリットは十分体感できた。今後は対面交流を積極的に進めていきたい。</p>
<p>エ 基本的な生活習慣を確立させる。特に、時間厳守と挨拶の励行に力を注ぐ。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの遅刻数を把握し、多回数生徒に対して個別指導。 ・基本的な生活習慣に関して、生徒アンケート設問19の肯定的回答(1・2)が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出欠・遅刻については、毎朝、授業担当者が出席をとり、端末に入力する形をとっている。各学年・担任が任意で最終時限終了後にホームルームを実施しているクラスもある。 ・遅刻が多数回の生徒には、各学年が個別に指導を行った。 ・挨拶と時間厳守については、校長が毎朝正門で挨拶を行い、必要な指導を行った。 <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの遅刻数を把握し、遅刻回数の多い生徒に対し、担任・学年主任を中心に個別指導を実施した。 ・アンケート設問19「基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか」の1・2の肯定的回答が中等部は84.8%、高等部は86.4%という結果であり、中等部生・高等部生とも基本的な生活習慣が概ね身についていると思われる。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>生徒の基本的な生活習慣の確立を促すため、より良い方策を模索していきたい。また、本校は女子の制服についてもパンツタイプを選択可能な仕組みを導入しているが、今後は髪型指導も含めて、益々多様かつジェンダーな視点で生徒指導を行うことが必要</p>

	<p>である。加えて、今後は遅刻、早退等の出席状況だけではなく、出席状況から見えてくる生徒の現状について生徒指導部、各学年の生徒指導係を中心に情報を共有し、生徒の状況把握に繋げていきたい。</p>
--	--

(3) 重点目標③：教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 授業力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業を実施。 ・週1回以上の校長による校内見回り、授業参観の実施。 	<p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に教員間の公開・研究授業を実施した。 ・校長の授業参観（巡視）を実施した。 ・課題配信やオンライン授業については、各教員が Google Classroom や Zoom 等を活用し、創意工夫を凝らし実施した。 <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月と11月に校内での公開・研究授業週間を設け、実施した。 ・校長の授業の見回り、授業参観の実施は、ほぼ毎日実施した。 ・教室に入内り、授業を参観するなどの取組も行った。 ・2月の初等部研究発表会の際に、初中連携の一環で中等部1年生から3年生まで研究授業を実施した。今後も継続していきたい。 <p>【今後の改善方策 (Action)】</p> <p>今年度は、原則対面授業を維持してきたが、オンライン授業での教材の進行状況や生徒の理解・定着度を把握できる仕組みを各教科の意見を聞きながら、検討していくことが必要である。</p>
<p>イ 教員研修の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修を年1回以上実施。 ・人権研修を年1回以上実施。 ・研修体制に関して、教員アンケート設問31の肯定的回答(1・2)が60%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況 (Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員対象人権研修会を6月と2月に実施した。 ・人権意識と実践力向上のために、人権教育部会が中心となり、時代に即応した内容及び招聘する講師について検討し、研修会を実施することができた。 ・教員向けのICTや個人情報の取扱いに関する研修職員会議の時間等を使って実施した。 <p>【達成状況 (Check)】 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員対象人権研修会を6月と2月に実施した。人権研修会により、人権意識の向上につながったのではないかと考える。 ・教員向けのICTスキル向上や個人情報の取扱いに関する研修を行い、意識の徹底や知識の向上を図った。 ・教員アンケートの設問31「本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している」の1・2の肯定的回答が、39.6%であり、目

	<p>標の60%には達していないため、引き続き、改善の取組を進めていきたい。</p>
<p>ウ 業務のマニュアル化、改善を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化の方策を校務運営委員会にて検討。 ・教科、校務分掌毎のマニュアル化の推進。 ・超過勤務時間の削減（2021年度から全体で5%減）。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続き、教科、校務分掌の業務連携や引き継ぎをスムーズに行えるよう、各係でマニュアル化を推進した。各学年・教科・校務分掌毎のデータフォルダに業務を記録し、教職員の誰もがデータ共有・閲覧できるようになっている。 ・各種会議の開催については、各学年・各分掌主任の采配（時期・業務内容等）により設定し、業務の削減に繋げている。 <p>【達成状況(Check)】（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化について十分な成果は上げられなかった。しかしそれぞれの教科、校務分掌毎のマニュアル化は推進した。 ・新たな勤怠時間管理システムを導入し、時間管理を行った。教員の働き方については協議を重ね、業務の効率化、超過勤務の削減に向けて今後も継続的に改良を重ねていきたい。 <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>業務について更なる改良、精査に努めていきたい。また、教員の働き方の改善と生徒に対する教育効果の向上を両立できるよう、様々な業務での引き継ぎ、マニュアル化や電子化を推進し、効率化を図っていきたい。</p> <p>業務改善のための取り組みを今後も継続して推進したい。</p>
<p>エ ミドルリーダー（各主任）の育成と裁量拡大の推進及び教員間の協力体制の構築。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの育成と裁量拡大について、校務運営委員会 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年・各分掌のそれぞれの主任が裁量を発揮し、学校運営に参画している。 ・教員間相互の報告・連絡・相談を徹底している。 <p>【達成状況(Check)】（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケートの質問5「教員間で相互理解を図るとともに、

<p>等を活用し、具体的方策を検討する。</p> <p>・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5の肯定的回答（1・2）が60%以上。</p>	<p>その信頼関係のもと教育活動を行っている」の1・2の肯定的回答は51.2%である。目標の60%には達していないため、引き続き、職場の信頼関係を構築していくための施策に取り組んでいきたい。</p> <p>・学年・分掌主任を30代から40代前半の若い教員に担当してもらうことによって、各自が自らの業務に工夫を凝らし、遂行しており、即時性はないかもしれないが少しずつ組織として世代交代を進められてきているように思う。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>開校以来10年以上が経過し、開校時のベテラン教員が退職していき、世代交代が進み、今後は中堅教員が学校運営することになる。</p>

3 アンケートの実施状況

本年度も、アンケートの実施には Google フォームを使用したことで、アンケート用紙の配布・回収の作業がなくなり、集計も容易になった。全体的に業務の簡便化を図ることができた。

(1) 生徒の評価

1月上旬に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施した。回答率は、2020年度91.3%、2021年度88.2%に対し、2022年度は84.8%であった。

(2) 保護者の評価

12月下旬から1月にかけて中高等部の全保護者を対象に実施した。回答率は、2020年度87.5%、2021年度77.7%に対し、2022年度は69.1%であった。

(3) 教員の評価

12月下旬から1月にかけて中高等部の教員を対象に実施した。回答率は2020年度76.0%、2021年度66.0%に対し、2022年度は80.8%であった。

4 アンケート結果の分析

以下、(1)「そう思う」…1、(2)「どちらかと言えばそう思う」…2、(3)「どちらかと言えばそう思わない」…3、(4)「そう思わない」…4と表記する。

(1) 生徒アンケートについて

生徒アンケートの結果は、設問1「学校生活は楽しいと感じていますか」では1・2の肯定的回答が中等部91.1%、高等部94.6%であり、設問2「この学校に入学してよかったですか」では中等部89.4%、高等部91.8%と昨年度と同様に高い評価となっている。我々、学校側としては喜ばしいことである。

次に、学習に関する設問9では、1・2の肯定的回答は中等部78.7%、高等部81.0%であり、設問11では中等部76.3%、高等部78.8%、設問12では中等部68.4%、高等部74.8%、設問13では中等部72.2%、高等部82.8%と、どの設問でも概ね70~80%を超える高い評価となっている。本校の生徒の学習に対する指導、取組に一定の成果があるとみてよいであろう。

また、「補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか」の設問 12 に関しては、1・2の肯定的回答が中等部生で 2020 年度 70.1%、2021 年度 73.7%、2022 年度 68.4%、高等部生で 2020 年度 63.3%、2021 年度 72.8%、2022 年度 74.8%であった。

高等部では教員の指導の成果が徐々に現れていると思われる一方、中等部では肯定的回答が減少しており、生徒の実態に合わせた適切なフォローが必要である。

(2) 保護者アンケートについて

保護者のアンケートでも、設問 2「この学校に入学させてよかったと思われませんか」には肯定的回答 1・2 が中等部 88.7%、高等部 86.5%と、生徒の評価と同様に中等部・高等部ともに高い満足度を得ている。学力に関する設問 9「本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか」についても、肯定的回答 1・2 が 2021 年度は中等部 72.5%、高等部 72.1% 2022 年度は中等部 68.5%、高等部 71.1%とやや減少したが、本校の取組に対して一定の理解と評価はいただいている。

また、スローラーナーへの対応に関する設問 14 に関しては、肯定的回答 1・2 が 2021 年度は中等部 60.7%、高等部 62.6%、2022 年度は中等部 56.9%、高等部 57.7%こちらもやや減少した。高い評価とは言い難く、更なる取組を進めていきたい。

設問 25「初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか」の初等部との連携に対する評価については、肯定的回答 1・2 が中等部 57.3%、高等部 64.8%と昨年度からやや上昇した。今年度は中等部 1 年生と初等部 3・4 年生対抗の百人一首大会を復活させたが、次年度以降更なる連携を構築していかねばならないと考える。

(3) 教員アンケートについて

設問 4の「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている」に関しては 3（どちらかと言えばそう思わない）・4（そう思わない）の回答が 2020 年度の 77.8%、2021 年度 90.7%から 2022 年度は 53.5%と減少した。今後も会議の運営方法や効率化に関しては改善できるところは改善が必要であると認識している。

設問 5の「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている」では 1・2の肯定的回答は 2020 年度 44.7%、2021 年度 46.9%、2022 年度は 51.2%であった。

設問 6の「管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている」の肯定的回答 1・2 が 2020 年度の 34.2%、2021 年度 18.8%に対して、2022 年度は 48.9%と大幅に増加した。引き続き、信頼関係構築に努めたい。

設問 13の「学力向上のための組織的な取組を行っている」の肯定的回答 1・2 は、2020 年度 44.7%、2021 年度 46.9%、2022 年度 58.2%、設問 14の「生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている」の肯定的回答 1・2 は、2020 年度 50.0%、2021 年度 62.5%、2022 年度 44.2%、設問 15「生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的に行っている」の肯定的回答 1・2 は、2020 年度 51.3%、2021 年度 51.6%、2022 年度 53.5%と若干の上昇が見られるが、全般的に及第点とは言えず、課題が残る結果となった。本校に適した解決策を模索していきたい。

一方、設問 18「学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている」の肯定的回答 1・2 については、2020 年度 71.0%、2021 年度 71.9%。2022 年度 67.5%で肯定的な回答が7割近くになっており、教員の日々の指導と生徒とのアンケート結果とも符合しているが、保護者のアンケート結果とは若干のずれがあり、日常の指導を丁寧に伝えることが必要であると思われる。

アンケート結果全体を真摯に受け止め、今後も教員が一丸となって組織的且つ有機的な教育活動を実践していきたい。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①「確かな学力の定着と向上、進路希望の実現」について

- ・コロナ禍においても、学習を止めずに継続されており、評価指標や取組状況については、概ね達成できている。非常に良い結果であると考ええる。
- ・スローラーナーへの対応について、スローラーナーとは学習に対して少し時間がかかる者という意味であると思うが、ここに学力不振者も含めた「学習習慣の付いていない生徒」が全体の1割程度であり、これらの生徒への対応であるとの説明を受けた。そうであれば、「生徒アンケート設問12『補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。』の肯定的回答（1・2）が60%以上」という評価指標は設定値としては少し低いのではないかと感じる。今年度は68.4%で目標達成とされているが、設定指標の見直しをされてはどうかと考える。
- ・過去には、保護者としては、スローラーナーへの対応に加えて、中位層や上位層をさらに伸ばすための対応もお願いしたいとの意見もあった。このため、こちらの対応も必要と考える。
- ・生徒へのサポートの仕方について、教員ごとに対応が様々であるとの声も聞いている。対応について、学年や教科の教員間で統一を図り、一定の足並みが揃えば、生徒の受け取り方も変わってくるのではないだろうか。
- ・ミスマッチの無い進路実現について、関西大学の併設校であることから、一般の高校生と比べて、まずは関西大学へ行くという考えが強いのではないかと推察するが、大学へ行くこと自体が目的とならぬよう、自身の興味に沿った学びを得られる学部・学科を選択できるようご指導いただきたい。その中で、高等部のプロジェクト学習におけるゼミ選択の時期を、従来高等部1年生の段階で行っていたものを、昨年度から半年遅らせて実施するように変更したとのことであるが、これは高等部2年生のプロジェクトゼミでの活動が、将来の進路選択にも寄与するものと評価できる。
- ・将来の仕事を考えた時に、文系の生徒は大学の学部選択において複数の学部が選択肢となり得るかもしれないが、理工系は業種を見据えた学部・学科選択が必要となる。看護系や医歯薬系の希望者についても毎年一定数いるとのことであるが、これらの生徒に対して、他大学への進学も含めて適切に指導されていると理解した。

イ 重点目標②「個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守」について

- ・コロナ禍のため、海外研修旅行へ行けなかったのは残念だが、プロジェクト学習での学外講師の登用やサステナブル・ブランド国際会議2023東京・丸の内への参加、オンラインでの国際交流の拡大など、とても素晴らしい取り組みをされている。
- ・グローバルな世界の中で、特に理工系での話かもしれないが、海外では博士号の有無で扱いが全く異なることを実感している。これからの時代、大学院での博士号取得へチャレンジしてもらいたい。
- ・高等部出身者は社会安全学部においてCOP26に関わった者もあり、大変活躍している。大学、大学院としても国際志向をより高められるよう努めたい。
- ・初等部から中等部、高等部にかけて、一貫して思考力育成や探究学習に力を入れられており、公立校としても大変参考にさせていただいている。
- ・プロジェクト学習における取組や、作成された論文に対する評価について、ルーブリックを作成し、それに基づきパフォーマンス評価を行われているとのことであるが、評価については課題もあるとのこと。客観的判断が可能となるようルーブリックの改定を重ね、ゼミごとで評価の点数に違いが生じない方策を引き続き検討されたい。
- ・ICTの活用について、インフルエンザ感染拡大による学年閉鎖時の対応だけでなく、日常的にICT機器を活用し、思考力を高められるよう対応されている。レポートや論文についても電子的に提出することで、これまでの論文等を振り返ることも可能であるということも評価できる。

ウ 重点目標③「教職員のさらなる資質向上及び業務の相互協力の推進」について

- ・達成状況が△の箇所について、特に業務のマニュアル化については、効率化や超過勤務時間の削減のためには必要なことと考えるが、マニュアル作成において、各教科の担当教員の間で方針を調整し、統一感の取れたものを作成することを意識し進めるべきと考える。
- ・ミドルリーダーの育成について、学年主任や分掌主任に、30代から40代の若い教員を中心に充てるなど少しずつ組織として世代交代を図っているところであるとの説明であるが、中等部生、高等部生はそれぞれ3年間しかないということを意識し、スピード感を持った対応をお願いしたい。
- ・公立校でも世代交代は難しい課題である。若い世代が重責のかかるポストを担いながら成長してくれているが、その中で別の学校への転勤ということもある。働き方改革の観点もあり悩ましいところであるが、教員同士の授業見学を実施することや、研修の受講により成長を促していくことが望まれる。
- ・この先10年、20年で大幅な生徒数の減少が起こる。大阪の公立校も再編を迫られる状況である。2022年の出生数はついに80万人を割った。生徒数の減少は大学にも通ずる話であるが、これを見据えた組織体制の構築や、教職員の資質向上を進めていくことが必要であろう。

(2) アンケート結果について

- ・生徒アンケートにおいて、学校が楽しいという評価が非常に高いのが何よりである。保護者からも良い声を聞いている。

- ・教員アンケートについては、色々な意見が出るようであるが、組織としてのガバナンスについては、検討が必要であるように感じる。働き方改革については企業も教育現場も共通目標であると認識している。
- ・子どもたちが学校生活を楽しんでいることは、とても良い状況である。一方で、ネガティブな回答を行っている子どもたちについて、1割に満たない割合であるものの、当該生徒がどう感じているか、どう過ごしているかを意識した対応が望まれる。
- ・いじめを許さない指導や、いじめを許さない学校・学級作りに関する設問について、生徒アンケートで20%、保護者アンケートで15%程度のネガティブな評価があることに對し、さらに気を配り、対応を検討していくべきであるとする。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
上田 誠一	高槻市立中学校校長会 会長、高槻市立城南中学校 校長
橋本 欣也	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
城下 英行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
井尻 誠	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部
校長 井尻 誠

本年度も中等部・高等部ともに、生徒が「入学してよかった」、「学校生活は楽しいと感じている」、保護者からも同等の評価を頂いたことは、中等部高等部に奉職する者にとっては大変喜ばしいことであり、本校の教育活動にご理解頂き、感謝したいと思う。

学校関係者評価委員（以下、委員）からは、重点目標①：「確かな学力の定着と向上、進路希望の実現」について、コロナ禍においても学びを止めない継続的な教育活動について（オンライン学習、授業への取組等）は評価を頂いている。しかしながら、スローラーナーの対応に関する一部の評価設定値についての低さや、中上位生徒への学力伸張についての取り組みを考える必要性についてご指摘頂いている事から、今後、学年・教科の教員間で統一感を意識した対応が必要であるとする。

重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践とルールの遵守」に対して、委員からは、探究学習・プロジェクト学習の充実や、オンラインでの国際交流拡大等について高い評価を頂いた。今後はオンラインでの交流と対面での交流それぞれの活動の長所を取り入れて進めたい。また、様々な教育活動を少しずつコロナ前の形に戻していきたい。

本校の探究学習については、論文に対する評価についてルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行っているが、課題もあることは事実である。客観的判断が可能となるようにルーブリックの改訂を重ねていくことを含め、高等部1年生のプロジェクト基礎および高等部2年生のプロジェクトゼミの活動が、より将来への進路選択につながるように、さらに高度なものへと昇華するようにしていきたい。

重点目標③：「教職員の更なる資質向上及び業務の相互協力の推進」について、業務のマニュアル

ル化に関しては、教員間のコミュニケーションを取り、統一感のとれたものを作成すべきとご指摘いただいた。また、世代交代に向けてスピード感を持った組織体制を構築することや、教員の資質向上に向けての取り組みの必要性のご指摘について、新しい施策を作り、実践に向けて取り組んでいきたい。何より、組織のガバナンス強化が必要であると強く考える次第である。

最後に、2022年の出生数が初の80万人を割り、少子化に歯止めがきかない日本の現状をふまえると、教員1人ひとりが私立学校、選択される学校として、10年後、20年後の学校のあり方を考えていかねばならないと考える。関西大学の併設校というだけの訴求力が永遠に続くということはなく、様々な課題を克服し一つ一つ改善していかなければならない。

そのためには、開校13年を過ぎ、開設時の教員が本校創設の理念を伝え、本校の教育目標を再確認すること、それらをさらに発展させること、時代の流れを感じつつもそれらに迎合することなく、本校独自の教育活動をバージョンアップし、実践していく事が肝要である。

教員はもちろん生徒、保護者ともに関西大学の併設校である矜恃を持ち、全員が「消えないもの」を持ち続けなくてはいけないと思う。関西大学の一員として強く念願する次第である。

7 アンケート結果

- 2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）
- 2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用）
- 2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

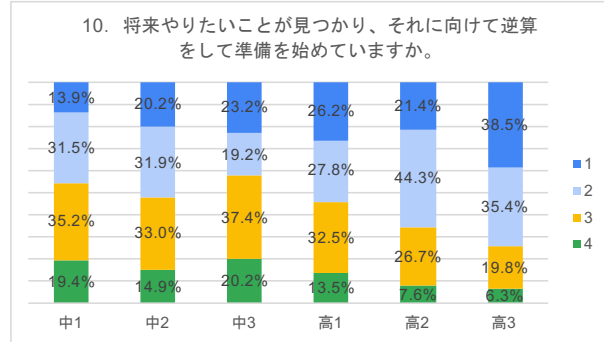
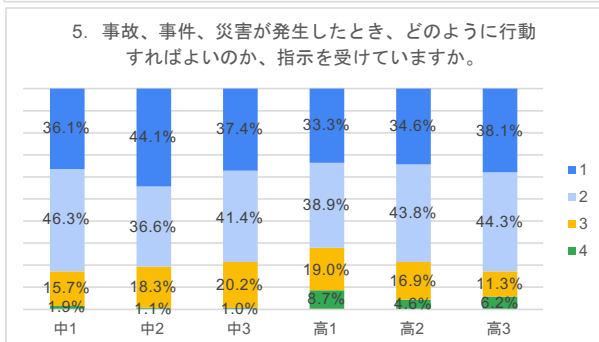
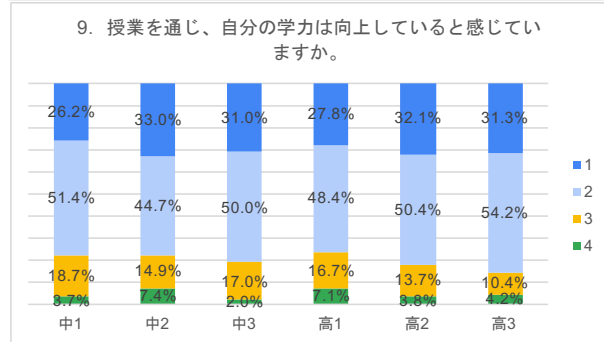
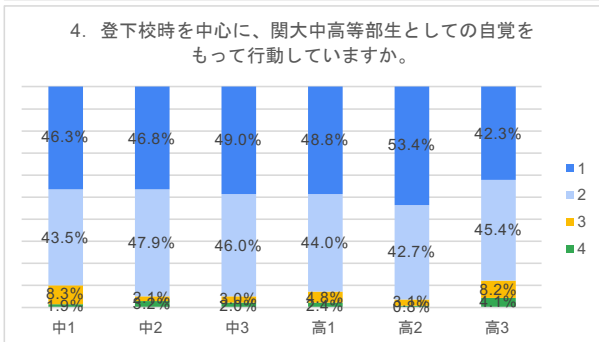
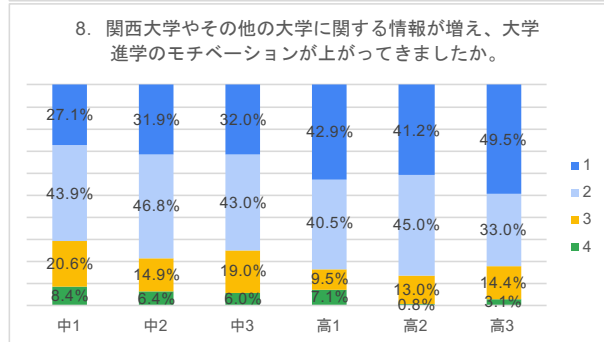
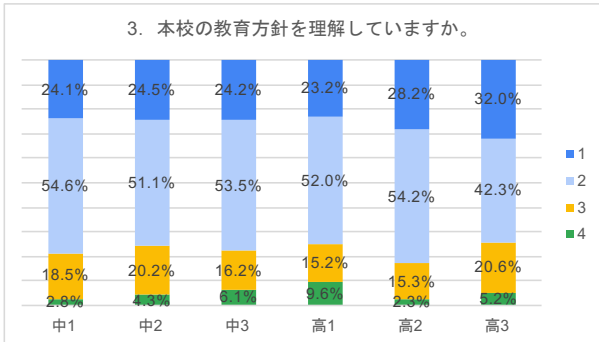
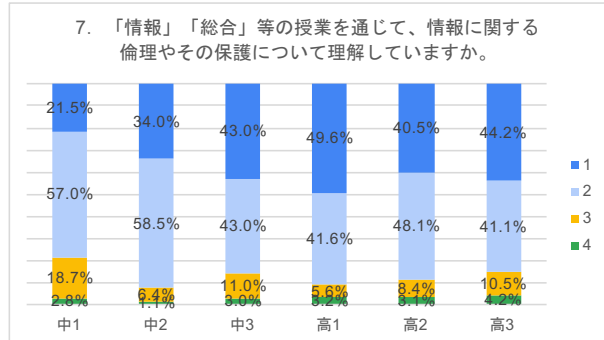
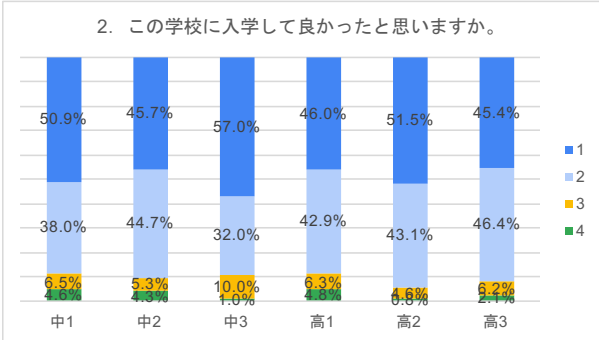
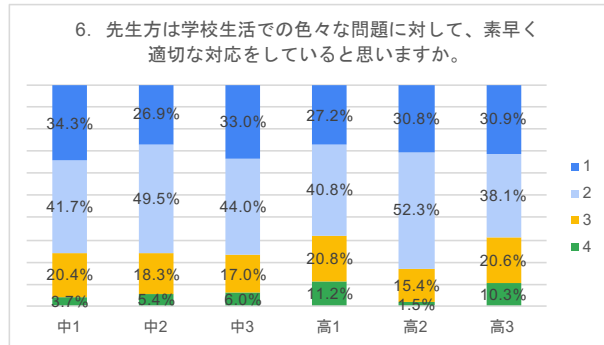
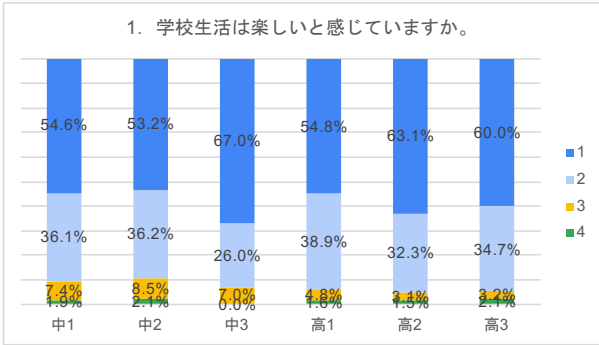
2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	58.3%	32.8%	7.6%	1.3%	59.3%	35.3%	3.7%	1.7%
2	この学校に入学して良かったと思いますか。	51.3%	38.1%	7.3%	3.3%	47.9%	43.9%	5.7%	2.5%
3	本校の教育方針を理解していますか。	24.3%	53.2%	18.3%	4.3%	27.5%	50.1%	16.7%	5.7%
4	登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚をもって行動していますか。	47.4%	45.7%	4.6%	2.3%	48.7%	43.9%	5.1%	2.3%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	39.0%	41.7%	18.0%	1.3%	35.1%	42.2%	16.1%	6.5%
6	先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	31.6%	44.9%	18.6%	5.0%	29.5%	44.3%	18.8%	7.4%
7	「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	32.6%	52.8%	12.3%	2.3%	44.7%	43.9%	8.0%	3.4%
8	関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がってきましたか。	30.2%	44.5%	18.3%	7.0%	44.1%	40.1%	12.1%	3.7%
9	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	29.9%	48.8%	16.9%	4.3%	30.3%	50.7%	13.9%	5.1%
10	将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。	18.9%	27.6%	35.2%	18.3%	27.8%	36.0%	26.9%	9.3%
11	模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。	25.0%	51.3%	16.7%	7.0%	28.5%	50.3%	16.4%	4.8%
12	補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	25.3%	43.1%	22.2%	9.4%	32.3%	42.5%	16.4%	8.8%
13	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	32.1%	40.1%	21.9%	6.0%	36.2%	46.6%	13.3%	4.0%
14	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	49.0%	37.1%	11.6%	2.3%	44.3%	37.8%	15.1%	2.8%
15	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	33.0%	50.3%	12.0%	4.7%	35.3%	44.6%	14.1%	5.9%
16	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	42.7%	37.1%	15.6%	4.6%	39.3%	39.3%	16.4%	5.1%
17	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	36.9%	46.2%	13.6%	3.3%	36.3%	48.2%	11.6%	4.0%
18	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	30.5%	47.7%	16.6%	5.3%	35.9%	48.0%	13.3%	2.8%
19	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	35.1%	49.7%	12.3%	3.0%	40.4%	46.0%	9.6%	4.0%
20	各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。	33.8%	53.0%	10.6%	2.6%	45.2%	44.6%	7.6%	2.5%
21	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がつきましたか。	33.6%	50.2%	13.6%	2.7%	36.0%	51.8%	8.8%	3.4%
22	高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携があると思いますか。	28.6%	45.8%	18.6%	7.0%	37.0%	44.4%	11.9%	6.8%
23	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	27.2%	44.9%	20.3%	7.6%	37.6%	44.6%	12.4%	5.4%
24	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	45.8%	36.5%	11.3%	6.3%	34.8%	44.2%	14.7%	6.2%

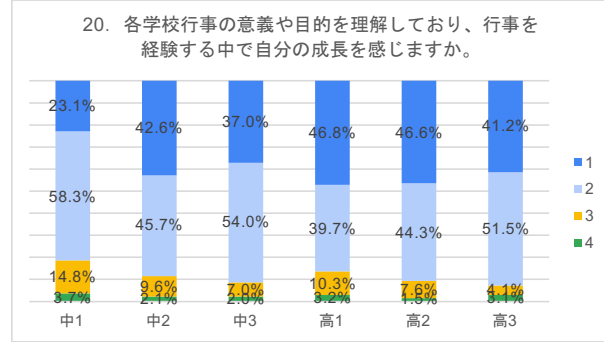
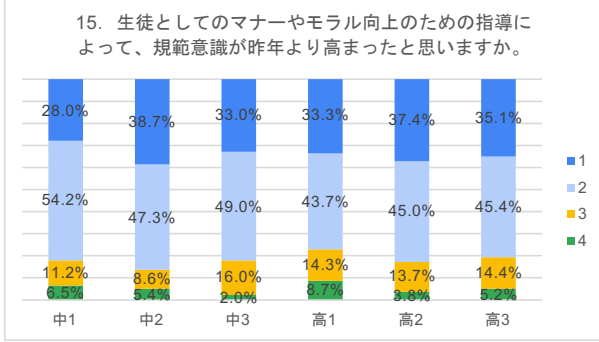
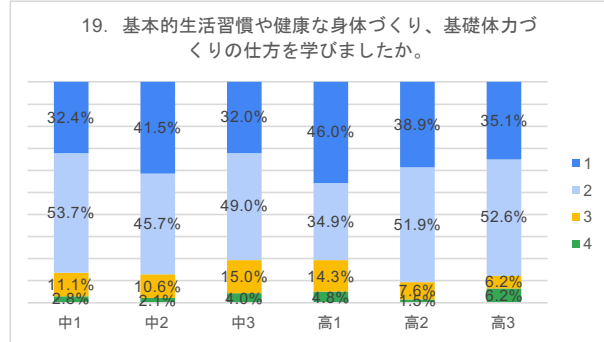
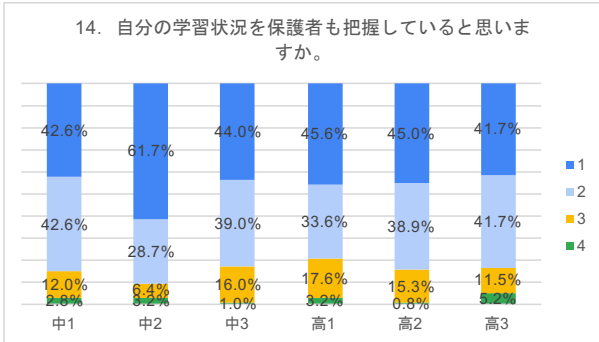
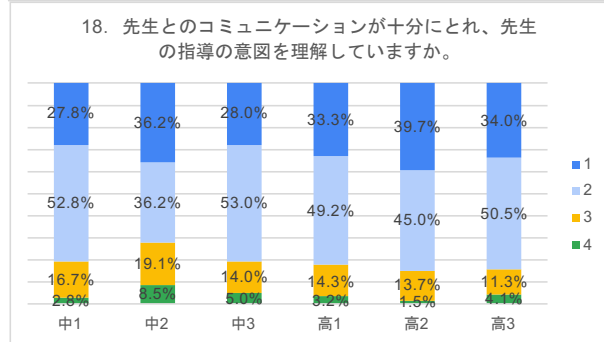
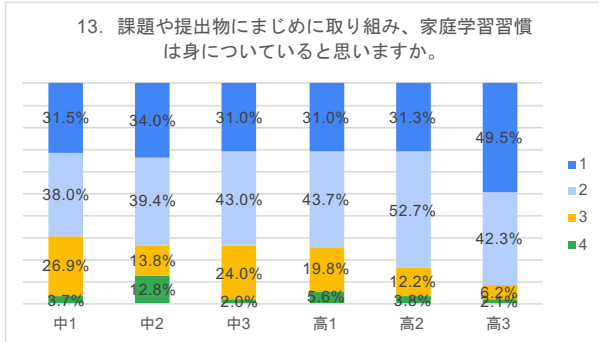
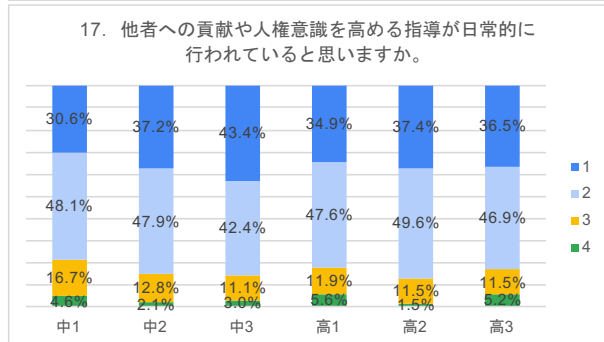
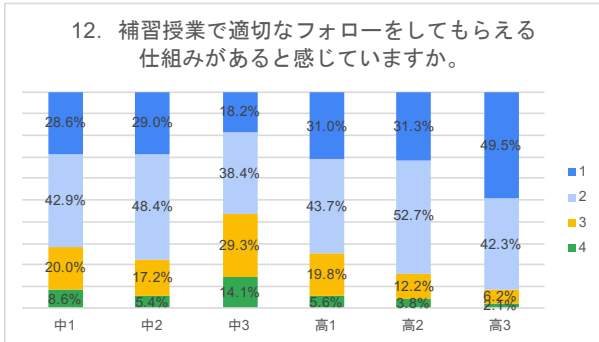
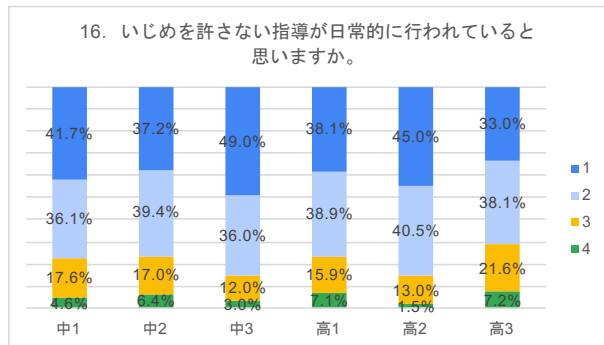
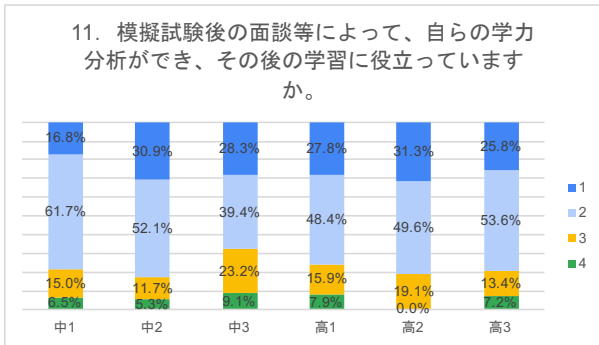
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



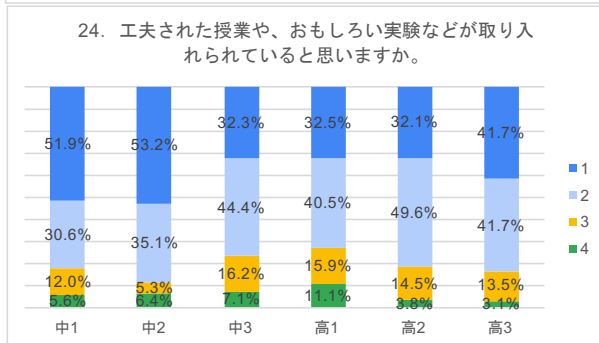
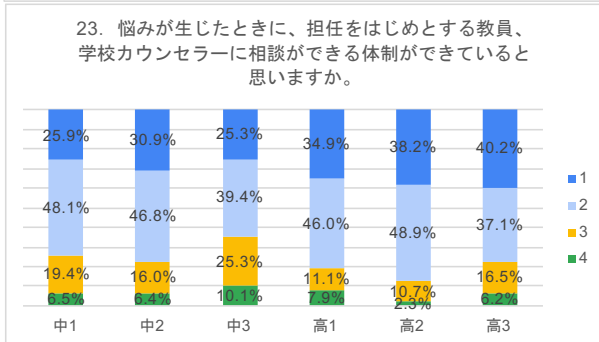
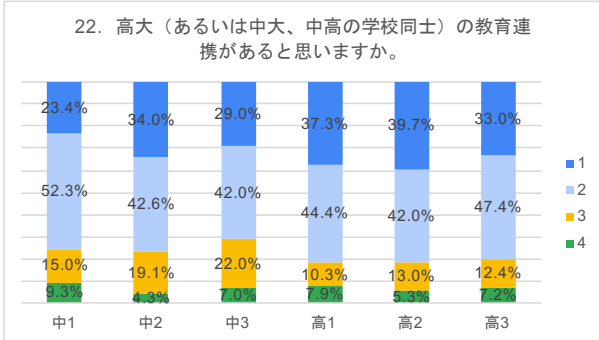
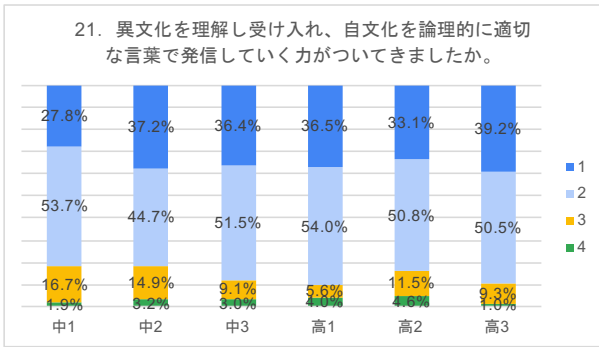
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



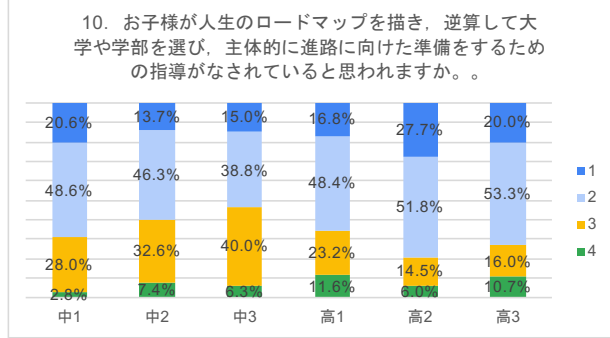
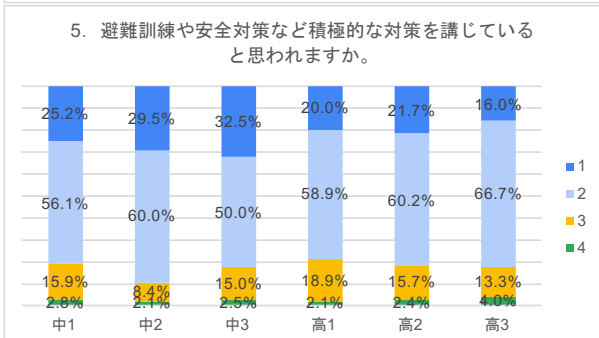
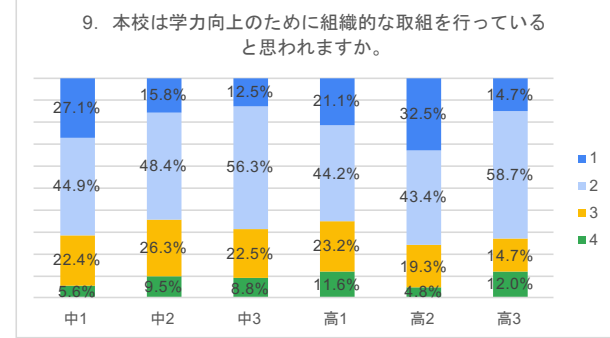
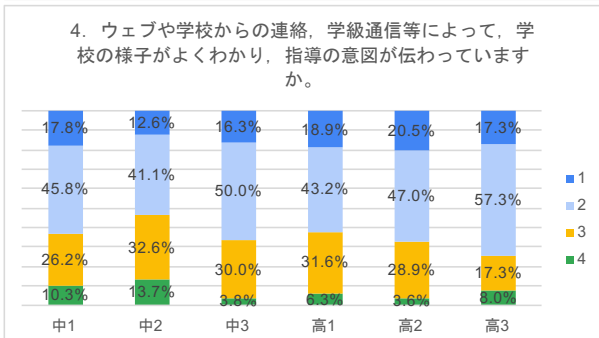
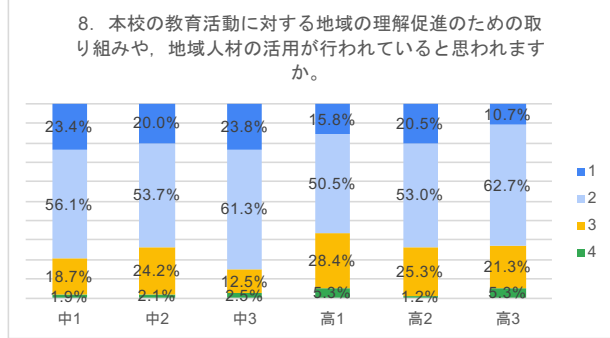
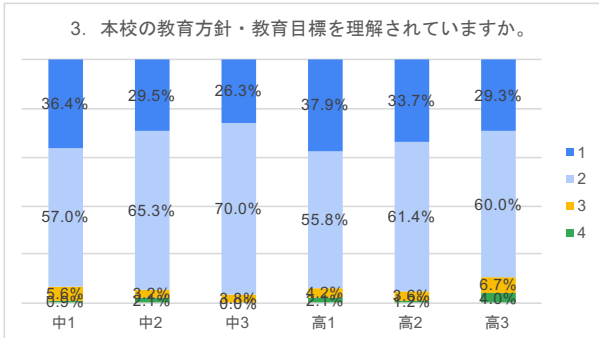
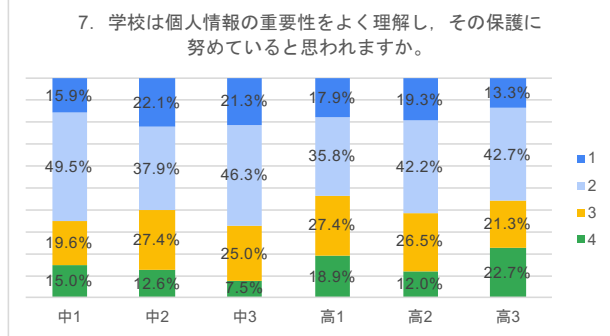
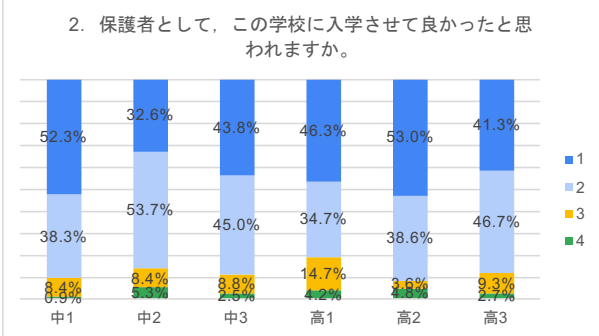
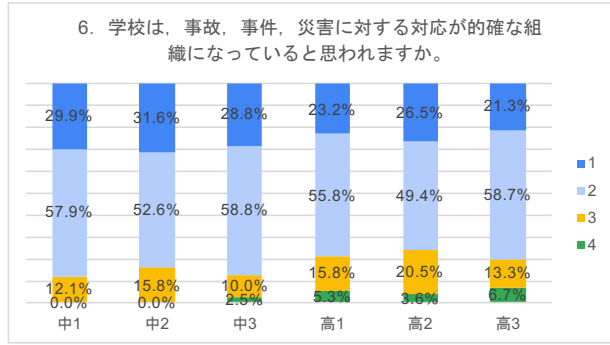
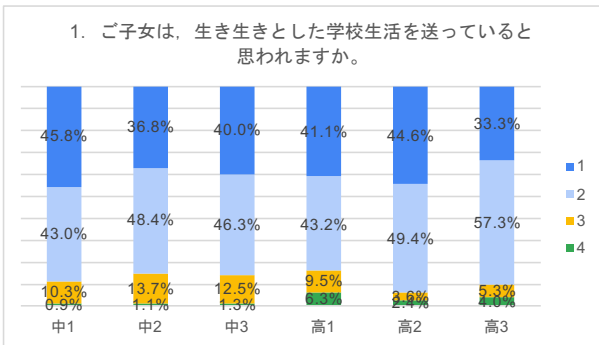
2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思えますか。	41.0%	45.9%	12.0%	1.1%	39.9%	49.4%	6.3%	4.3%
2	保護者として、この学校に入学させて良かったと思えますか。	43.5%	45.2%	8.5%	2.8%	47.0%	39.5%	9.5%	4.0%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	31.4%	63.3%	4.2%	1.1%	34.0%	58.9%	4.7%	2.4%
4	ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	15.5%	45.6%	29.3%	9.5%	19.0%	48.6%	26.5%	5.9%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思えますか。	28.6%	55.8%	13.1%	2.5%	19.4%	61.7%	16.2%	2.8%
6	学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思えますか。	30.0%	56.5%	12.7%	0.7%	23.7%	54.5%	16.6%	5.1%
7	学校は個人情報的重要性をよく理解し、その保護に努めていると思えますか。	19.4%	44.9%	23.7%	12.0%	17.0%	39.9%	25.3%	17.8%
8	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思えますか。	22.3%	56.9%	18.7%	2.1%	15.8%	54.9%	25.3%	4.0%
9	本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思えますか。	19.4%	49.1%	23.7%	7.8%	22.9%	48.2%	19.4%	9.5%
10	お子様が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思えますか。	16.6%	44.9%	33.2%	5.3%	21.3%	51.0%	18.2%	9.5%
11	生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを行っていると思えますか。	20.1%	53.7%	21.6%	4.6%	22.5%	55.7%	16.2%	5.5%
12	学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思えますか。	26.5%	57.2%	14.1%	2.1%	30.4%	56.1%	9.1%	4.3%
13	学校は教室のディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思えますか。	33.9%	46.3%	16.3%	3.5%	42.7%	43.9%	10.3%	3.2%
14	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思えますか。	13.4%	43.5%	26.1%	17.0%	10.7%	47.0%	26.5%	15.8%
15	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思えますか。	21.9%	53.0%	19.1%	6.0%	25.3%	55.3%	12.6%	6.7%
16	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思えますか。	25.4%	60.4%	11.3%	2.8%	28.5%	56.5%	9.9%	5.1%
17	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思えますか。	22.3%	64.7%	10.2%	2.8%	24.5%	60.1%	9.9%	5.5%
18	お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思えますか。	18.4%	50.9%	24.7%	6.0%	20.2%	53.8%	23.7%	2.4%
19	本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思えますか。	24.4%	59.0%	15.5%	1.1%	15.0%	69.2%	12.6%	3.2%
20	本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思えますか。	21.9%	54.1%	19.4%	4.6%	17.8%	59.3%	17.4%	5.5%
21	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思えますか。	18.0%	57.6%	23.0%	1.4%	11.1%	61.3%	24.1%	3.6%
22	各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思えますか。	26.1%	58.3%	14.1%	1.4%	24.1%	59.7%	12.3%	4.0%
23	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思えますか。	27.6%	55.1%	17.3%	0.0%	20.6%	58.5%	18.2%	2.8%
24	高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思えますか。	17.0%	51.6%	25.1%	6.4%	26.5%	53.4%	15.4%	4.7%
25	初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思えますか。	11.0%	46.3%	29.7%	13.1%	13.0%	51.8%	26.5%	8.7%
26	子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思えますか。	21.9%	55.8%	17.7%	4.6%	20.6%	61.3%	12.6%	5.5%
27	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思えますか。	25.4%	49.8%	17.7%	7.1%	23.3%	55.7%	13.8%	7.1%

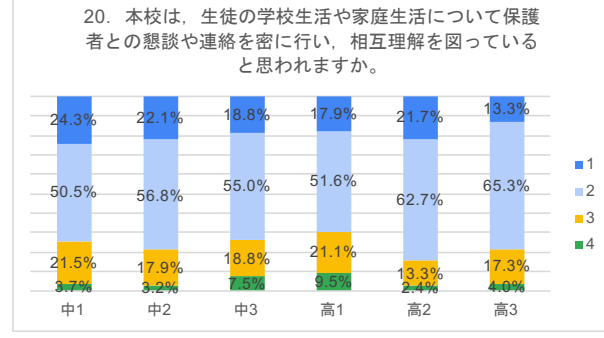
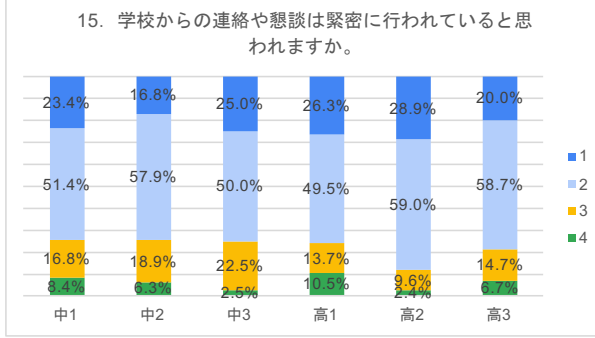
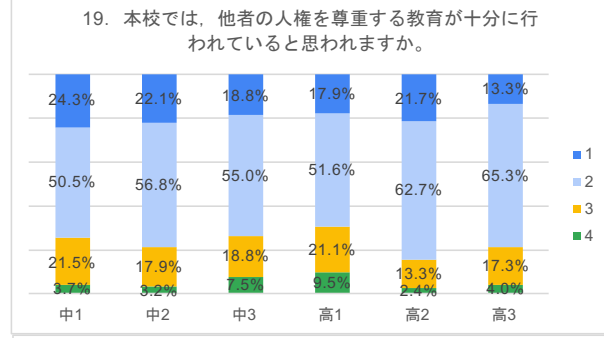
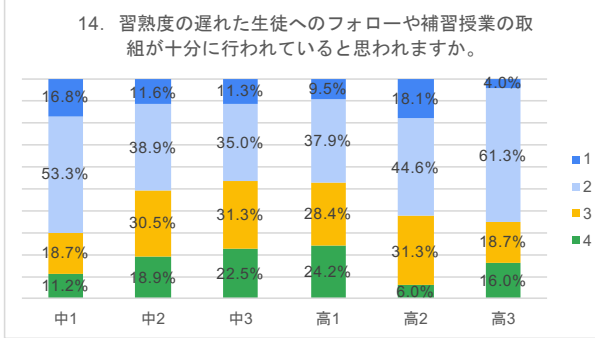
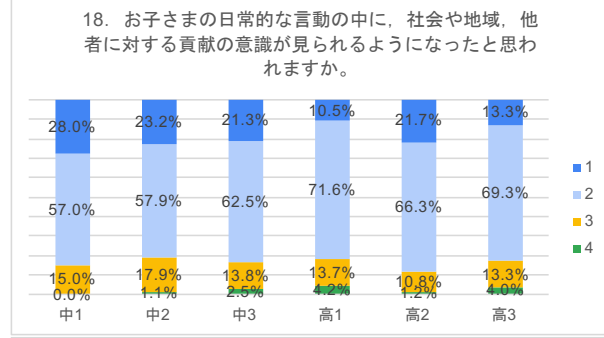
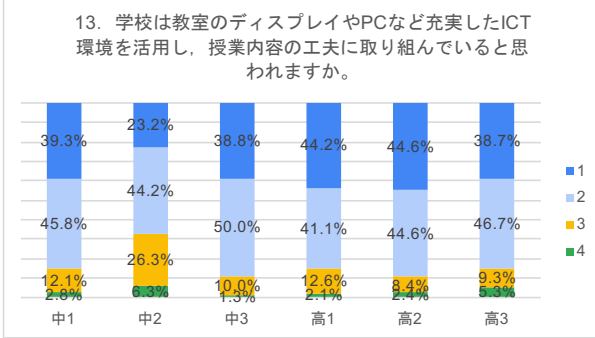
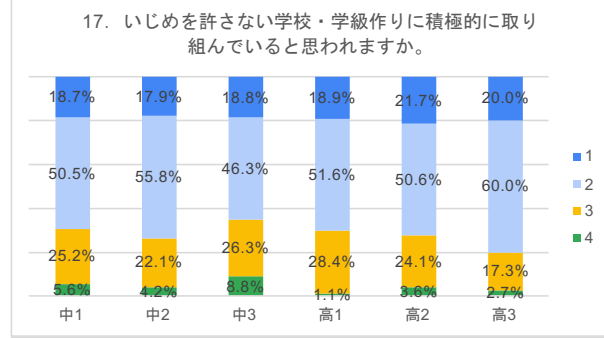
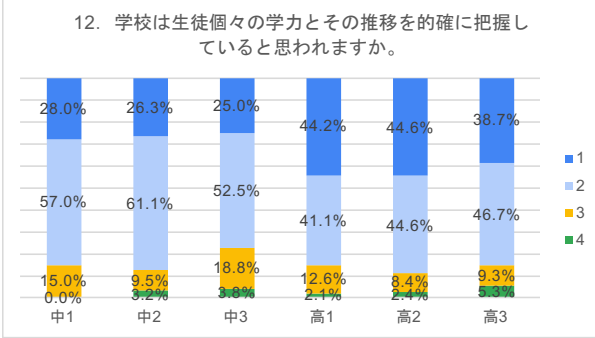
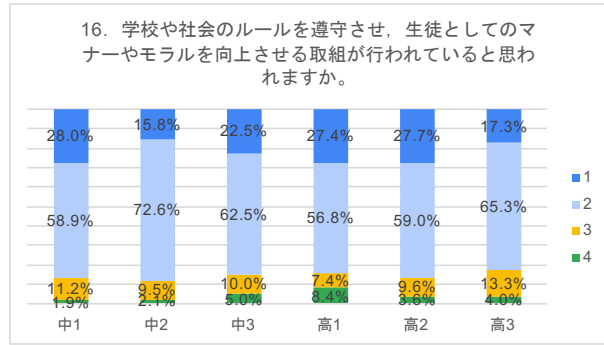
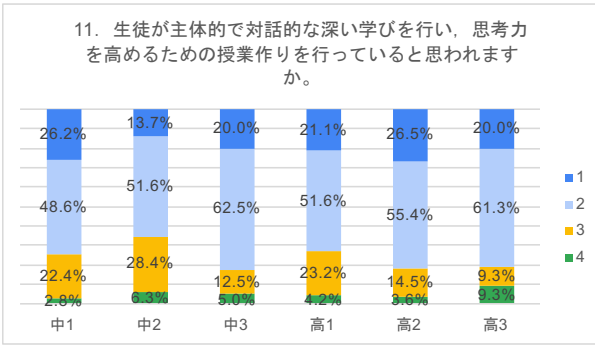
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



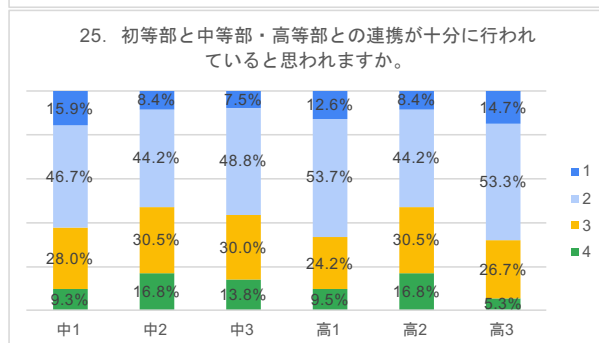
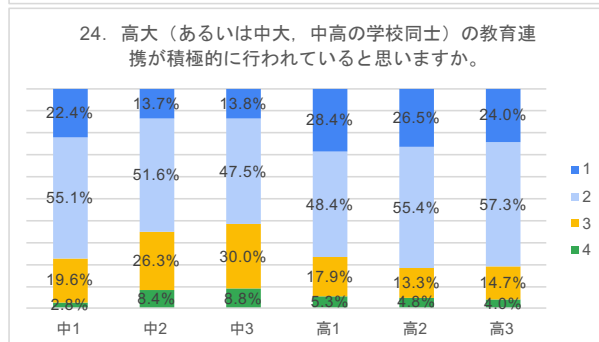
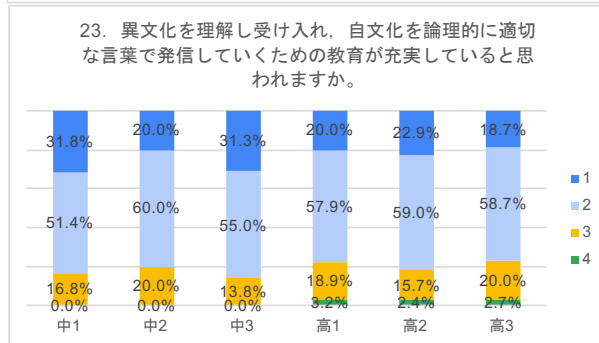
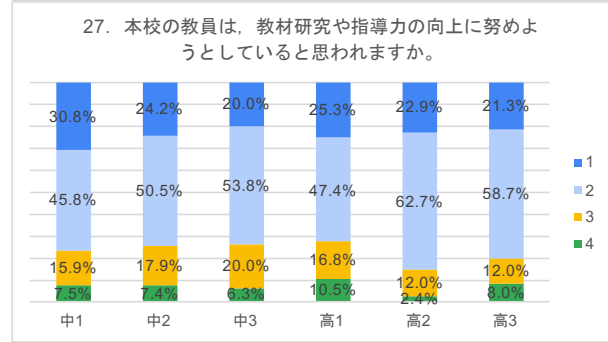
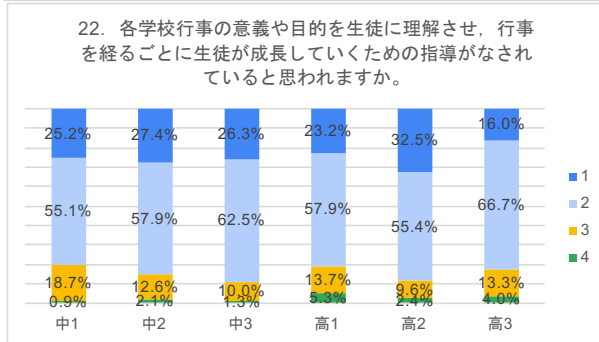
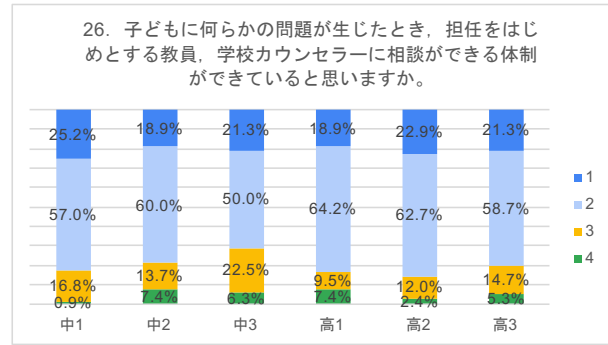
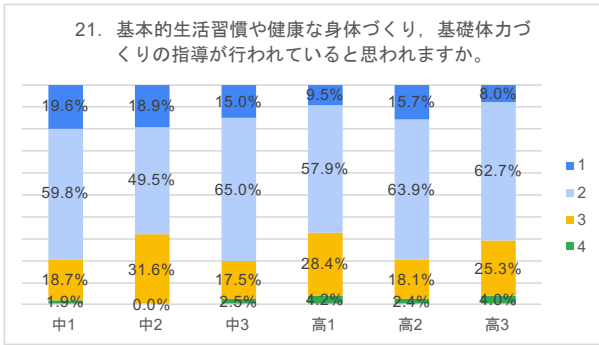
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



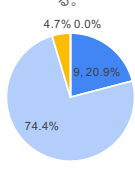
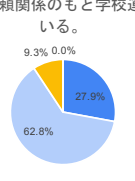
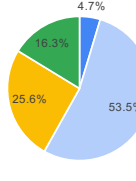
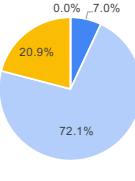
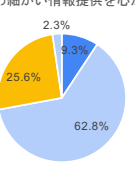
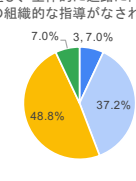
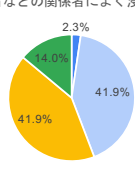
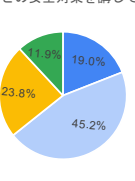
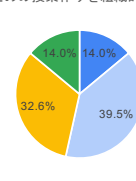
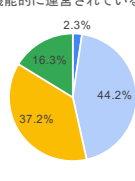
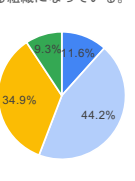
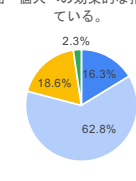
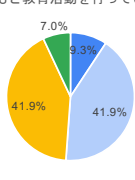
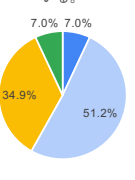
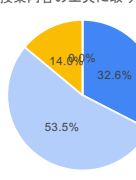
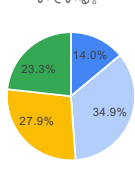
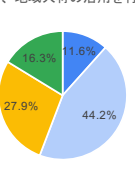
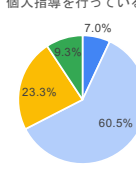
2022年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	1	2	3	4
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	20.9%	74.4%	4.7%	0.0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	7.0%	72.1%	20.9%	0.0%
3	建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	2.3%	41.9%	41.9%	14.0%
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	2.3%	44.2%	37.2%	16.3%
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	9.3%	41.9%	41.9%	7.0%
6	管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	14.0%	34.9%	27.9%	23.3%
7	教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	27.9%	62.8%	9.3%	0.0%
8	ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。	9.3%	62.8%	25.6%	2.3%
9	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	19.0%	45.2%	23.8%	11.9%
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	11.6%	44.2%	34.9%	9.3%
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	7.0%	51.2%	34.9%	7.0%
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。	11.6%	44.2%	27.9%	16.3%
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。	4.7%	53.5%	25.6%	16.3%
14	生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。	7.0%	37.2%	48.8%	7.0%
15	生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にしている。	14.0%	39.5%	32.6%	14.0%
16	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。	16.3%	62.8%	18.6%	2.3%
17	液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。	32.6%	53.5%	14.0%	0.0%
18	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	7.0%	60.5%	23.3%	9.3%
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	18.6%	60.5%	20.9%	0.0%
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	7.0%	58.1%	25.6%	9.3%
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	32.6%	51.2%	14.0%	2.3%
22	授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。	7.0%	44.2%	37.2%	11.6%
23	他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。	9.3%	55.8%	30.2%	4.7%
24	生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。	27.9%	53.5%	18.6%	0.0%
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	11.6%	55.8%	30.2%	2.3%
26	各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。	16.3%	48.8%	27.9%	7.0%
27	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。	16.3%	55.8%	18.6%	9.3%
28	高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	11.6%	53.5%	23.3%	11.6%
29	初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話したりして、初中高連携を図っている。	14.0%	46.5%	23.3%	16.3%
30	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	25.6%	60.5%	11.6%	2.3%
31	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	7.0%	32.6%	39.5%	20.9%
32	教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。	9.3%	44.2%	34.9%	11.6%

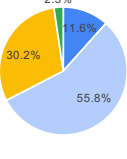
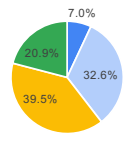
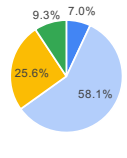
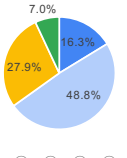
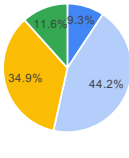
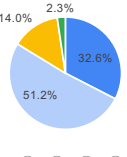
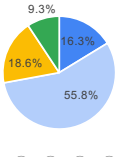
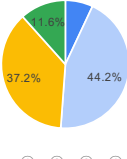
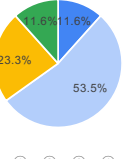
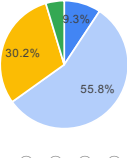
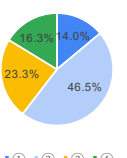
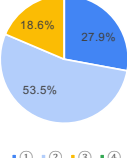
教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>7. 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>
<p>2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>8. ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>14. 生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。</p>  <p>①・②・③・④</p>
<p>3. 建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>9. 警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>15. 生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的に行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>
<p>4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>16. 模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。</p>  <p>①・②・③・④</p>
<p>5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>17. 液晶ディスプレイやPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。</p>  <p>①・②・③・④</p>
<p>6. 管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>	<p>18. 学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。</p>  <p>①・②・③・④</p>

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。</p>  <p>0.0% 18.6% 60.5% 20.9%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>25. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。</p>  <p>2.3% 11.6% 55.8% 30.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>31. 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。</p>  <p>7.0% 20.9% 32.6% 39.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。</p>  <p>9.3% 7.0% 25.6% 58.1%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>26. 各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。</p>  <p>7.0% 16.3% 27.9% 48.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>32. 教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。</p>  <p>13.8% 9.3% 34.9% 44.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないよう早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。</p>  <p>14.0% 2.3% 32.6% 51.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>27. 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。</p>  <p>9.3% 16.3% 18.6% 55.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	
<p>22. 授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。</p>  <p>7.0% 11.6% 37.2% 44.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>28. 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。</p>  <p>11.6% 11.6% 23.3% 53.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	
<p>23. 他人の人権を尊重する教育が計画的に行われている。</p>  <p>4.7% 9.3% 30.2% 55.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>29. 初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。</p>  <p>16.3% 14.0% 23.3% 46.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	
<p>24. 生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。</p>  <p>0.0% 18.6% 27.9% 53.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>30. 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。</p>  <p>11.6% 2.3% 25.6% 60.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	